

平成25年東御市議会第3回定例会

市長招集あいさつ

(平成25年9月3日 午前9時開会)

〇はじめに

9月の声を聞き、ようやく厳しかった夏の暑さも徐々に和らぎ、朝夕の涼しさとともに、爽やかな秋の気配が感じられる頃となってまいりました。

今年の夏は、「記録」と「記憶」に残る猛暑が続きました。

各地で熱中症とみられる患者さんが病院に搬送されるなど、連日マスコミでも報道され、市民生活にも大きな影響があったところでございます。

高気圧に覆われて晴天の日が続いた8月の中旬は、例年とは異なり、お盆を過ぎても暑さは一向に衰えず、この時期における平均気温が例年を2.1℃も上回り、統計史上の最高を記録しました。

暦の上では、既に立秋も過ぎましたが、まだまだ暑さは留まるどころを知らず、看過できない状況にあります。

農林水産省が8月30日に発表した2013年産米の作柄概況によると、19道県ある早場地帯のうち9道県が「やや良」、長野県などの10県は「平年並み」と報告されました。市内においては、初夏の少雨と干ばつの影響が心配されましたが、回復の兆しに胸を撫で下ろすところであります。

農業を大切な基幹産業として位置づける我が市にあって、巨峰をはじめとしたブドウを含め、これから迎える収穫の季節への期待が高まるところでございます。

本日ここに平成25年東御市議会第3回定例会を招集申し上げましたところ、議員各位におかれましては、何かとご多用のところご出席いただき、ここに開会できますことを厚く御礼申し上げます。

□社会情勢等

さて、社会情勢に関しましては、直近に発表されました内閣府の月例経済報告（8月15日）によりますと、「景気は、着実に持ち直しており、自律的回復に向けた動きもみられる。」との基調判断が示されました。

また、消費・投資などの需要動向に関しては、4～6月期のGDP（国内総生産）の成長率は、アベノミクス効果の影響からか、実質GDPが前期比で0.6%増（年率換算2.6%増）となり、名目GDPの成長率が前期比で0.7%増（年率換算2.9%増）となったことから、「名実逆転」も解消され、デフレからの脱却に明るい兆しが見えてきたところであります。

また、個人消費・公共投資に関しては総じて堅調に推移しており、円安を背景として輸出も持ち直しの動きがみられ、内外需ともに好調が維持されつつあります。

一方で、製造業を中心とした地方の中小企業では、石油・天然ガス・原材料・飼料等の輸入製品の価格高騰の影響を受け、数値で表されるような景気実感とは乖離していると云わざるを得ません。

事実、民間のシンクタンク（長野経済研究所）による「最近の長野県経済の動向」（8月19日）では、県内景気の概要を、「一部に弱さが残るものの、持ち直しつつある」としてはいますが、長野労働局が発表した上田管内の有効求人倍率は、前月を0.10ポイント、前年同月を0.09ポイント上回る0.80倍となったものの、依然として全国平均・長野県平均を下回る結果を推移しています。

今後とも、国県や関係機関との連携を密接にし、経済・雇用対策に努めてまいりたいと考えております。

このような中、政府においては、先月末に景気回復基調と成長率を背景として、消費税率の8%への引き上げの是非について、5つのテーマに亘り60人の有識者による集中点検会合を開催致しました。

最終的には、安倍首相が有識者会議の意見と経済成長率の数値を基に判断を下すこととなりますが、企業収益を内部留保に留めず、設備投資や賃金に反映させ、消費に還元できるような循環になることが肝要であり、増税によって消費者マインドが減速、低下しないよう慎重な判断を期待するとともに、税と社会保障の一体改革の主旨に則り、持続可能な社会保障制度を確立するため、長期的な視点から、経済対策・生活対策をはじめとした各分野に亘る施策が、より効果的に実施されることを強く望むものであります。

私が市政をお預かりして6年目も半ばに差し掛かりました。

この間、行政の継続性を旨とし、掲げた公約の実現に向け、ひとつひとつを確固たるものにすべく、様々な施策への取り組みをしてまいりました。

今定例会は、平成24年度に実施致しました諸施策に係る事業の決算認定をお願い致すものであります。

併せて、補正予算と条例の一部改正には、これから先の施策に関する私の考えの一端を示させていただいております。

議員各位をはじめ、市民皆様方のご理解とご協力を賜りますよう、宜しくお願い申し上げます。

□諸般の情勢

さて、ここで前回6月定例会以降の市内の主だった動きを振り返ってみますと・・・

（和保育園建設工事着工）

6月27日、和地区保育園建設工事起工式を行いました。

現在の西部保育園は昭和48年度に新築、和保育園は昭和54年度に全面改築されたもので、これまでの間、地域の皆さまに愛され、地域の皆さんとともに子ども達の健やかな成長を見守ってまいりましたが、現代社会が必要としている「多様な保育ニーズ」に対応できる施設整備をするため、2園を統廃合して新たな保育園を建設することとなり、保育園の建設にあたっては、今回も地元の木材で園舎を建築するため、和財産区のカラマツを利用させていただくこととなりました。

来春の開園に向け、次代を担う子ども達を安心して産み育て、楽しく子育てができるよう、和地区における子育て支援の拠点となる為にも、施設機能・保育内容を更に充実させてまいります。

（市民が主役の市民まつり/最高に熱い夜）

8月3日、田中商店街において東御市民まつり「どすこいSUNSUN」を開催致しました。

待ち侘びた踊りには区や企業などから53連が参加し、昨年より100人多い4,200人の踊りの列が商店街を所狭しと埋め尽くしました。

山車や幟旗、衣装にも、趣向が凝らされ、市民の心が連帯し一つになった姿は、明るい東御市を象徴するように元気と熱気に溢れていました。

また、今年は、大相撲東関部屋・元小結高見盛の振分親方が来訪され、雷電子ども相撲大会をはじめステージにも登場され、祭りの盛り上げに一役買っていただきました。

まつりの企画から運営まで携わっていただいた実行委員及び運営スタッフの皆様には改めて敬意を表し感謝を申し上げます

であります。

（祢津保育園芝生園庭引渡し）

8月7日、長野県造園建設業協会様から祢津保育園に、スプリンクラー設備の一部と、芝生化した園庭の寄付の申請をいただき、引き渡し式が行われました。

市では、未来を担う子ども達の豊かな情操を養うと共に、園児の健康づくりの一環として、園庭の芝生化を保育園改築事業と一緒に進めておりますが、この日、祢津保育園が芝生化園庭の第一号となりました。

（特別な意味合いを持つ8月15日の成人式）

8月15日、祖先を祀り新たな生命に思いを馳せる日、今年も323人の門出を祝う成人式が文化会館サンテラスホールで開催されました。

新成人を代表して結成された実行委員会の皆さんが企画・運営に参画した、厳粛な式典でありました。

終戦記念の日でもあり、新成人の皆さんには、類的存在・・・すなわち、人間とは、常に自己と他者を意識し、その関係性の中で生ずる存在・・・としての個を認識すると共に「流れに従えども、志を忘れることなく」、幸多き人生を送って戴きたいとエールを送りました。

（名誉な出来事：天皇皇后両陛下再度の行幸啓）

8月25日、天皇皇后両陛下が、軽井沢にご静養でご滞在の合間を縫って、当市にお立ち寄りになり、本海野区にこの5月に開館した「水村喜一郎美術館」をご訪問されました。

当日は、沿道を埋めた市民に対して、両陛下が車窓から手を振って応えてくださいました。

一昨年の滋野・中屋敷のぶどう団地ご訪問に続いて、市にとりましても、大変に名誉な出来事でありました。

（地域の安全安心は自らの手で）

9月1日、一昨日開催致しました防災訓練は、全国瞬時警報システム（J-アラート）からの緊急地震速報を受信し自動転送の機能確認を行い、加えてFM放送（エフエムとうみ）とメール配信を用いた緊急情報伝達に基づいた避難を実施するとともに、要援護者の避難方法や各区における避難経路や避難場所・危険個所の確認といった基本的なことから重点に、より実践に即した形で行われ、市内全域に亘り、65区、総勢では昨年より500人多い6,315人の参加を得て所期の目的を果たすことができました。

本格的な台風シーズンを前に、3.11 東日本大震災の教訓を活かしながら、「安全で安心して暮らせるまちづくり」のために、防災体制の一層の充実を図らなければと、決意を新たにしたところでございます。

（将来を担う若者たちの活躍）

酷暑をものともせず、市の将来を担ってくれる若者たちが、活き活きと躍動しています。

まず、北御牧小学校の将棋クラブが文部科学大臣杯第9回小中学校将棋団体戦県大会で見事優勝し、東日本大会への出場を決めました。そのメンバーの一人西田くんは、長野県小学生将棋選手権大会高学年の部で2連覇し、倉敷王将戦全国大会への出場を2年連続で決めました。滋野小6年の荻原さんは、県大会を勝ち抜き、広島で開催された全国柔道大会に出場しました。

上田西高校野球部が夏の県大会に初優勝し、念願であった甲子園初出場を果たしました。メンバーには、本市在住のレギュラーとして活躍した外谷くんがおり、去年の佐久長聖高校三人に続いて夢を叶え、後に続く後輩の皆さんの大きな励みと目標になりました。

東部中学校では、今年も柔道部では唯野くん(全国ベスト16)、荻原さんの2名が県大会で優勝、全国切符を手中にし、また、野球部は中部日本地区選抜中学校野球大会県代表大会で優勝し、中部日本大会に出場しました。

また、高校では当市在住の金子くん、荻原くん2名のレギュラー選手を含む、上田東高校男子アーチェリー部が団体戦で全国高校総体（インターハイ）に出場しました。その他、ボクシング競技ではバンタム級で東御清翔高校の寺澤くんが、陸上競技では女子三段跳びに上田東高校の花岡さんが、女子競泳では長野清泉女学院高校の原田さんが、女子柔道競技では松商学園高校の上原さんが、それぞれ全国の舞台に歩を進め、活躍しました。

更には、長野救命救急専門学校のバレーボール部が全国大会の出場を果たし、東御消防署の須藤隊員が、全国消防救助技術大会ロープブリッジ渡過の部で6位入賞の快挙を果たしてくれました。

この三ヶ月ばかりの間の主な動向について申し上げましたが、「小さくともキラリと光る東御市」づくりに取り組むうえで欠くことのできない出来事は枚挙に遑がありません。

私自身、引き続き初心を忘れずに市政に携わってまいり所存でございますので、市民の皆様並びに議員各位におかれましては、尚一層のご指導とご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

日本定例会の提案議案

それでは、本定例会に提案致します議案につきまして、順を追ってその概要を申し上げます。

（平成24年度決算について）

まず、議案第70号から78号まで、平成24年度の各会計の決算について申し上げます。

平成24年度の日本経済は、東日本大震災からの復興需要や政策効果の発現等により、夏場にかけて回復に向けた動きが見られましたが、その後の世界経済の減速等を背景として輸出や生産が減少するなど、景気は弱い動きとなり、底割れが懸念される状況となりました。しかし、昨年12月に発足した安倍内閣が掲げる、日本経済再生に向けた「大胆な金融政策」、「機動的な財政政策」、「民間投資を喚起する成長戦略」の「三本の矢」（いわゆるアベノミクス）により、個人消費がけん引役となって日本経済が持ち直しに転じており、長引くデフレから反転する兆しが現れております。

平成24年度東御市の一般会計におきましては、緩やかな景気の回復により個人市民税は増額となったものの、固定資産税は評価替え等に伴い減額となり、市税全体では前年度に比べ減収となりました。依然厳しい経済情勢が続く中で、引き続き行財政の簡素・効率化を図りながら一層の経費の節減・合理化と重点配分に徹し、舞台が丘公共施設整備事業をはじめ予定致しました市重点事業を、順調に実施することができました。

平成23年度からの繰越事業につきましては、舞台が丘公共施設整備事業、滋野地区保育園建設事業、御牧乃湯施設全体改修施設整備事業、海野バイパス整備事業などを実施してまいりました。

また、各特別会計、公営企業会計におきましても、ほぼ順調な事業実施を行い、地域改善地区住宅改修資金等貸付事業特別会計を除いては、いずれも黒字の決算となりました。

これもひとえに議員各位をはじめ、市民皆様方の格別のご理解とご協力の賜物と心から感謝を申し上げます。

各会計の詳細な決算状況につきましては、後ほど副市長及び関係部長等から申し上げますので、私からは一般会計決算につきましてその概要を申し上げます。

平成24年度の一般会計予算は、当初145億5,000万円でスタートしました。その後、9回の補正を行い、前年度からの繰越予算を加えた最終予算額は、169億4,700万円ほどになりました。これは前年度に対し14億円余り、率にして9.0%の増となっております。

歳入決算額は、161億5,761万円で前年度に対し12億3,197万円、率にして8.3%の増となり、歳出決算額は、154億3,284万円で前年度に対し9億9,989万円、率にして6.9%の増となりました。

歳入歳出の差引額は7億2,477万円ほどとなり、25年度への繰越明許費の繰越財源を除いた実質収支は、4億4,977万円ほどの黒字決算となりました。このうち2億2,489万円を地方自治法等の規定により、財政調整基金に積立てることと致しました。

次に、普通会計ベースの主な財政指標につきまして申し上げます。

まず、自治体の標準的な一般財源の規模を示す「標準財政規模」は、90億5,099万円ほどで、標準税収入額等が増となったものの普通地方交付税等の減により、前年度に対して8,627万円、率にして0.9%の減となりました。また、「財政力指数」は3ヶ年平均で0.476となり、前年度（0.478）とほぼ同率でした。

次に、「経常収支比率」につきましては、評価替え等による市税の減額等により85.9%となりました。

なお、6年目を迎え定着してまいりました「財政健全化判断比率」につきましては、後ほどその詳細を報告致しますが、いずれも基準を下回っており、おおむね良好な状況と考えております。

一般会計の「起債残高」であります。24年度に合併特例債など、新たに29億2,300万円を借り入れ、11億6,905万円

を返済したことから24年度末の起債現在高は167億1,636万円ほどとなり、対前年度比17億5,395万円ほどの増となりました。

また、「基金現在高」は、66億2,826万円ほどとなり、前年度に比べ2億1,388万円ほどの増となりました。

（平成25年度補正予算について）

次に、議案第79号から84号まで、一般会計、特別会計、公営企業会計合わせて6件の補正予算でございます。

まず、議案第79号「平成25年度東御市一般会計補正予算(第3号)」でございますが、歳入歳出予算に39億7,343万1,000円を追加致しまして、総額を188億2,307万6,000円と致すものでございます。

その主なものとして、

- ・防災対策の充実を図るための備品購入
- ・旧滋野保育園及び旧東保育園の解体
- ・旧御牧原保育園を活用して障がい者や高齢者と地域住民とが交流できる施設に整備するための地域介護・福祉空間整備等施設整備事業による補助
- ・武道館の耐震補強工事
- ・土地開発公社先行取得用地の買戻し
- ・第三セクター等改革推進債を財源とした土地開発公社の債務の代位弁済

などを行うため、増額補正をお願いするもので、国や県の補助金のほか、起債や繰越金等を財源として充当するものでございます。

また、防災対策用の備品購入の財源は、この度の臨時特例等による議員の報酬や職員などの給料等の削減額を充てるものでございます。

次に、議案第80号「平成25年度東御市国民健康保険特別会計補正予算(第1号)」は、支払基金へ支払う前期高齢者納付金等の額の確定に伴い増額補正をお願いするものでございます。

次に、議案第81号「平成25年度東御市介護保険特別会計補正予算(第1号)」は、前年度国庫支出金の精算に伴い増額補正をお願いするものでございます。

次に、議案第82号「平成25年度東御市水道事業会計補正予算(第1号)」及び議案第83号「平成25年度東御市下水道事業会計補正予算(第1号)」は、臨時特例に伴う減額補正、また、下水道事業会計における債務負担行為の追加をお願いするものでございます。

次に、議案第84号「平成25年度東御市病院事業会計補正予算(第1号)」は、大規模災害時対応のための施設整備に伴う増額補正等をお願いするものでございます。

詳細につきましては、それぞれ担当部長等から提案の説明を申し上げますので、宜しく願い申し上げます。

(条例の一部改正)

続きまして、条例等の議案につきまして、ご説明申し上げます。

議案第85号及び議案第86号は、既存条例の一部改正でございます。

議案第85号「市税外収入金督促手数料及び延滞金徴収条例等の一部を改正する条例」につきましては、「地方税法」の一部改正及び市税条例の一部を改正する条例の施行に伴い、延滞金の割合を見直すほか所要の改正を行うものでございます。

また、議案第86号「東御市地域情報交流施設条例の一部を改正する条例」につきましては、同施設の管理を指定管理者に行わせるための所要の改正及び放送法に基づく番組審議機関の設置を行うほか、所要の改正を行うものでございます。

(契約案件等)

続きまして、議案第87号「海野宿滞在型交流施設整備工事変更請負契約」及び議案88号「中央公民館増改築(建築)工事変更請負契約」につきまして、それぞれ議会の議決を求めるもので

ございます。

また、議案第89号及び議案第90号は、財産の取得について、議案第91号は、「第三セクター等改革推進債の起債に係る許可申請について」、議案第92号は、「東御市土地開発公社定款変更について」、それぞれ、関係する条例や法令等の規定により議会の議決をお願いするものでございます。

詳細につきましては、それぞれ担当部長から提案の説明を申し上げますので、宜しくお願い申し上げます。

口むすびに

以上、本定例会に提案致します議案につきまして、その概要を申し上げます。

十分にご審議をいただきまして、それぞれの案件につきましての認定・承認・決定を賜りますよう重ねてお願い申し上げます。

9月1日には阿部県政が4年目に入り、任期の最終年を迎えられました。

産業・経済の立て直しや教育の再生を中心に、「しあわせ信州創造プラン」を掲げ、引き続き高い支持率のもと各種の施策を積極的に取り組んでおられる阿部県政に対しては、市町村の思いを汲んだ安定した県政を期待するとともに、前例にとらわれない発想のもと、「市民の為」を主眼として、今後も引き続き良好な関係を構築してまいりたいと考えております。

なお、阿部知事には、来る10月3日の「東御の日」に、本市においてタウンミーティングをお願いする予定で計画を進めております。

100年に一度とも云われた世界的な金融・経済危機に伴う地域

経済の悪化や、新自由主義的な政策の負の側面とも云える様々な社会システムの歪みなど、新たな課題が顕在化する一方で、3.11東日本大震災を経験し地球環境問題やエネルギー問題とともに、少子化・高齢化や地域間格差など、従来から認識されてきた構造的な課題についても、本格的な取組みが必要な、差し迫った課題となって山積しています。

今は、そうした様々な課題が同時期に重なる、まさに時代の大転換期にあり、地域づくりにおいても、従来の発想や考え方を大きく見直していくことが求められております。

こうした重要な転換期に当たり、常に停滞と後退は許されない市民生活に直結する行政を担う自治体の首長に課せられた責務の重さと果たすべき役割の重要性を再認識致しております。

真に自立したまちづくり、安定した市政運営を進めるべく、リーダーシップを発揮しつつ、現下の情勢を見極めながら、「持続可能な美しいまちづくり」を標榜し、最善の選択肢を求めて粉骨砕身、尽くしてまいることを改めてここにお誓い申し上げ、本定例議会招集のごあいさつと致します。

平成 25 年 9 月 3 日

東御市長 花岡 利夫